進捗状況報告シート
（2011年度・大学）

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

Ⅰ．評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 （研究科）
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） ~~実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）~~
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

Ⅱ．自己点検・評価（2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告）

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。
進捗評価はA～Dの４段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

A ： 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B ： 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C ： 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D ： 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価 2009	2010	2011	2012	2013
１．院生の研究や論文執筆に向けて、マスター・セミナーを通じた指導教授のもとでの指導の徹底と本研究科がもつ学際的な教育環境をうまく連結させる教育指導体制を2011年度までに検討し、実施に移す。	→新たな教育指導体制の実施の有無。	B	B			
２．院生による授業評価を通じた教育方法や授業への要望をくみ取る仕組み、また教員と院生の間のフランクな形でのコミュニケーションを図る仕組み・場（欧米の大学で行われているドーナツアワー等）の設置を2010年度から実施する。	→院生と教員がコミュニケーションを図るための場の開催回数。	A	A			
３．院生の授業や学内行事（リサーチ・コンソーシアム等）への出席状況や取り組み姿勢ついて調査・検証し、教員へフィードバックする仕組みを2010年度中に検討し、実施に移す。	→院生の授業への出席回数、学内行事への出席者数。	C	B			
			☆			

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
	(説明)学部4学科体制と連動し、総合政策という本研究科の教育目標を実現するため、2010年度に研究科カリキュラムの大幅な見直しを行い、2011年度から新カリキュラムに移行した。さらに、2コース制を廃止し、全学生にマスター・セミナーの履修および修士論文の提出を義務づけ指導の徹底を図っている。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
	(説明)本研究科では、詳細なシラバスを作成しており、大学院生はそれに基づいて履修選択を行っている。シラバスには成績評価の方法も記載されており、仮に変更があった場合は大学院生に事前に周知されるシステムになっている。原則としてシラバスに沿った授業展開、成績評価が行われていると判断してよい。
小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
☆	(説明)成績評価に対しては、学生からの異議申し立て期間が設定されており、その間に申し立てがあった場合には担当教員から文書により成績評価について回答することとなっている。このようにして最終的に確定された成績評価に基づいて単位が認定されている。

小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
	（検証の有無）　いずれかにチェックしてください。　→→→→→→→→→→→→→→　◉ 検証している　○ 検証していない
	（説明）2012年度から、大学院生に対してリサーチ・コンソーシアムならびにリサーチ・フェアでの発表を義務づける（2011年度リサーチ・コンソーシアムへの出席者は42名中18名にとどまる）。これにより、指導教員以外の教員・学生による教育成果の相互チェックが期待できる。この結果は主として、マスター・セミナーを通じて教育内容・方法の改善に結びつけられる。
その他	

《評価指標データ》

履修者数規模別の授業科目数（少人数・中人数・大人数）
少人数授業の授業形態の調査
規模別講義室・演習室使用状況
マルチメディア教室の稼働率
遠隔授業を活用した授業の比率
各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
履修者別開講科目数・１科目当たりの履修者数
学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率（大学、学部別、授業形態別）
成績評価の分布が適正な科目（平均点が70-75点）の比率
ＧＰＡ値（全学、学部別、男女別など）
定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
オープン授業（授業公開）の全授業における割合
学生の授業評価の実施率（全学、学部別）
学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率（大学、学部別、授業形態別）
在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
大学院生の論文件数（査読制の雑誌と学内紀要等に分ける）
日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項　※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価（1）》効果が上がっている事項　注）出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

	小項目6.3.1	
	小項目6.3.2	
☆	小項目6.3.3	
	小項目6.3.4	大学院生の研究発表と交流の場および教員も含めた相互研鑽の場として、2010年度からドーナツ・アワーを設定している（2010年度9回開催）。これにより、大学院生の研究の進展状況の把握、および必要とされる指導についての情報を得ることができる。
	その他	

【次年度に向けた方策（1）】伸長させるための方策　注）出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

	小項目6.3.1	
	小項目6.3.2	
☆	小項目6.3.3	
	小項目6.3.4	ドーナツ・アワーを定期的に開催するとともに、軽食を提供するなど、学生・教員の参加を促すための誘因を工夫する。
	その他	

◎改善すべき事項　※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 （2）】改善すべき事項　注）出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

《次年度に向けた方策（2）》改善方策　注）出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他（自由記述）	

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】
○適切な対応がなされて、効果があがっていると判断されます。
○詳細なシラバスや厳格な成績評価、ドーナツ・アワーの設定などは、高く評価できます。

【学内委員】
○学生とのコミュニケーションを活発にするという意味で、ドーナツ・アワー等の試みが行われていることは大いに評価できます。このような試みが日常的に行われることは有意義であると思われます。
○ドーナツ・アワーを定期的に開催するとともに、学部生にも開放するなど院生確保の機会とすることが期待されます。
○大学基準協会の留意すべき事項を参考にされた記述が期待されます。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】
○小項目6.3.1
　基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、１年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」
○小項目6.3.2&6.3.3
　基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、１年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」
○小項目6.3.4
　基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」
　達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的に実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」
○小項目6.3.1～6.3.4
　達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）
・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし。